

小学校パソコンクラブの現状とこれからの課題

八王子市立館小学校 3年担任 藤井敏晴 (現東浅川小)

e-mail アドレス toto_21@ka2.so-net.ne.jp

1. 始めに

私は、八王子市立館小学校での3年間、パソコンクラブを担当してきました。館小学校のクラブ活動の大体の様子をお伝えし、又、八王子市の小学校約90校に採ったアンケートを考察しながら、小学校でのパソコンクラブの現状とこれからの課題について、提案したいと考えました。

2. 館小学校パソコンクラブの活動

クラブ活動ですから、どこの学校でも同じだと思いますが、まず子ども達の「話し合い」からスタートします。例えば平成16年度のクラブの第一回目で、こんなことやりたいよ、と子ども達は意見を出しあいました。

年間20時

- 自分の作品を作って、印刷機を使って印刷してみる。
- ゲームをする。
- デジカメを使いたい。
- インターネットを使いたい。
- 学校のホームページ、去年のパソコンクラブのホームページ、その他を見る。
- ホームページ作り
- ホームページの完成
- クラブ発表会(校内)での発表。
- 学校のホームページに載せてもらう。

左の「話し合い」に基づいて計画を立て活動しました。例えば、

(1) お絵かき



一太郎スマイルや、ハイパキューブなどのソフトで十分お絵かきは楽しめます。

(2) 印刷



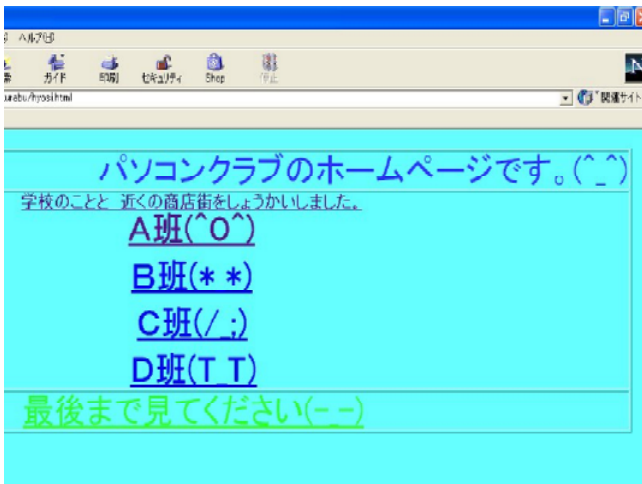
結果を手にするのと、やる気につながるのので、時々印刷機を使います。

(3) ゲーム



ゲームは何年生にも人気があります。今4年生の彼がやっているのは、フリーシェアウェア-以前の上り下りゲーム子どもには大変好評です。こういうものを常時10本位用意してあります。たまにやらせてあげます。

(4) ホームページ作り



パソコンクラブが作ったホームページの一部です。2学期の最初に、クラブの中に班を作り、各1台の「デジカメ」を持ち、学校や周りの取材をさせました。できたWebページは「館小学校」の公式のホームページの中の「パソコンクラブの部屋」に載せてもらっています。

今回の分は、平成17年3月から平成18年3月までです。この作品は、この他、校内のクラブ発表という形で、校内のテレビ放送施設を使って、オン・エアーしました。そのときには、子ども達の「肉声」も使って説明も加えました。

URL

www.edu.city.hachioji.tokyo.jp/school/tatee

で見ることができます。

3. 八王子市の小学校のパソコンクラブの実態アンケートから

アンケートを採ったのは、他の学校はどうやっているのかという興味と、資材(ハード・ソフト)の面、指導要領上の限界がどんな影響でているのか浮き彫りにしてみたかったことと、次につながる提案をしたいからである。

1. 質問の項目 市内小学校69校、回収47校 パソコンクラブ有りは32校

別紙

2. 回答内容について

(1) クラブは4年からがほとんど。(2) 児童数は平均23.2人(3) 授業時数の平均は20時間(4) 担当者は平均1.6人。

(5) デジカメについて 31校平均 5.9台であった。ここで注目すべきは、10台以上児童用デジカメを所有するのが次の5校であり、これらの学校は6番目の質問項目「活動計画」について、比較的充実した内容になっていることである。

校名	台数	校名	台数
A小	12	D小	10
B小	15	E小	10
C小	20		

(6) 活動計画について

上記5校を含む10校ほどを紹介すると。

校名	活動内容	校名	活動内容		
A小	時数	I小	作品展に出展		
	PCの使い方		4	カレンダー作り	1
	カレンダー作りなど		5	年賀状作り	3
	メル交換		2	その他様々なソフトを使って	
	年賀状作り		3		
	調べ	4			

B 小	お絵かき 2 印刷、メ - ルごっこなどパソコン室の機能学習 3 ゲ - ム類 2 インタ - ネットの閲覧 3 ホ - ム - ペ - ジ作り 4 クラブ発表会への取り組み 3 その他 3	J 小	自己紹介カ - ドを作ろう 2 ~ 3 自分の物語りを作ろう 1 5 , 6 発表会 2
F 小	パラパラ漫画 2 キッドピックスの作品作り 3 同上のスライド作り 3 インタ - ネット検索 3 自己紹介カ - ド 3	C 沢	作曲 6 オリジナルカ - ド作り 4 コレクション 2 千代紙のデザイン 4 絵本作り 4
G 小	操作説明 1 各ソフトの使い方 1 名刺作成 2 メ - ル (校内) 1 インタ - ネット 5 図形作成 2 その他	D 小	運動会新聞作り 2 学習発表会新聞作り 2 自己紹介カ - ド作り 1 名刺作り 1 絵本作り 3 飛び出すカ - ド作り 2 メ - ル 6
H 小	自己紹介 5 メ - ル 2 ~ 3 新聞作り 5 年賀状 クリスマスカ - ド作り 4 お絵かき 3	E 小	パソコンに慣れよう 絵本、新聞、プレゼンテ - ションを作ろう 6 T シャツプリント、うちわづくり 4 年賀葉書作り 2 校内ホ - ムペ - ジを増やそう 4

これらの 10 校は回答の紙面から、比較的児童の活動内容の実態がつかみやすい学校であった。他にも内容のつかみやすい学校はあるが、ここでは省きます。

(7)「おすすめの取り組み」は、7 校記入があり、例えば、「音楽作り」「動く絵作り」「HP 作り」「HP 作り」「夏休みの思い出を説明する」「年賀状作り」「千代紙のデザイン」など、である。共通しているのは、クリエイティブな取り組みであること。友達、先生など、他者に対してプレゼンテーションの機会を持てるもの、とすることができようか。

(8)「共同学習」についてはほとんど記述がなく、一校パソコンクラブの取り組みではないがと断り、みなみ野小の「共同学習」の実践として、

クラブではなく、4 年生の社会科で、工科大の学生が開発した「八王子町探検」が役立っています。工科大の学生が、4 年生担任と相談しながら作ったサイトです。

と言うものがあつた。

(9)「インタ - ネットの利用」については、32 校のうち、19 校が記述有り、調べ学習、インタ - ネットマナ - 、HP 調べ、検索、ゲ - ム、メ - ル等々様々な使われ方がしてある。ただし、インタ - ネットはまだ、全ての教室に入っているわけではないので、他の学校、教室との結びつきが非常に弱い。

(10)「使用ソフト」・別紙

(11)「期待するソフト、ハード」

ここを見ると、学校の様子が分かります。

「故障しないパソコンをひとりに1台」(第三小)「メールやチャットができるもの」「共同で作品が作れるソフト」(第8小)「児童が使える発表用ソフト」(宇津木台小)「すぐにフリーズを起こしたり、プリンタが詰まったりなどで、ひとりではやりきれない現状」(長房小)等々・・・あとは別紙に。

総じて見るなら、次のいくつかに集約されるか。新しいパソコンを児童に使わせたい。メンテナンスで時間が取られる。デジカメの台数がほしい。ホームページ作成用のソフトがほしい。発表用(プレゼン用)のソフトが欲しい、など。

(12)「クラブ発表会」などの取り組み 記述6校のうち、クラブ発表会が有るのは1校だけ、あとは、作品展に出す、クラブ見学会で発表する、「クリスマスカードと年賀状を掲示する」、など。これは、パソコンクラブだけでなく、「クラブ活動」そのものが置かれている立場を表しているのだろう。

4. アンケート回答から分かったこと

1) 32の学校でパソコンクラブがあるのに、児童の意欲に答える条件(ハード、ソフト)を、学校と教師が準備出来ていないのではないか。

2) 新しい指導要領で、総合的な学習の時間や「情報機器を利用した教育」が目玉になっていたが、皮肉にも、新しい「要領」が軽視した「クラブ」では、十分な「パソコンクラブ」の活動が必ずしも行い得ないことが明らかになった。(それでもパソコンに魅力を感じる子ども達はパソコンクラブに集まるが)

3) 上とも重なるが、子ども達はゲームなどを好むが、アンケートを良く分析すれば、創造的な学習、つまり、HPを作ったり、音楽や、何かものを作ったり、の活動が大好きなのではないか。ところが、それには、やはり、新しいOS、CPUと大きなメモリ、良いビデオカードが欲しいのです。ソフトももちろん。

4) アンケートの中に「共同学習」がほとんどなかったのは、時間数のことと、インタネットに繋がっている教室がまだパソコン室くらいである、とかが理由ではなからうか。

・・・パソコンクラブのことだけでなく、コンピュータ利用の教育活動の観点から見てきたことだが、社会的にこれだけインタネットが広がっていることを考えたら小学校での、全教室へのインタネットを早急に実現して欲しい。そうであればパソコンの意味が広がるし、子ども達の学習活動も大きく幅を広げることでしょう。

5. これからのパソコンクラブと小学校の「情報教育」

1) パソコンクラブでは、子ども達の意欲を刺激するようなフリソフトを集めよう

2) おもしろい活動、創造的な活動について、学校間で交流していこう。

3) 異校種間でも、ためらわずにコンタクトを取って、他の楽しい取り組み、興味深い取り組みを紹介してもらおう。

4) デジカメの台数を確保して、鉛筆や消しゴムのように、デジカメやパソコンを使うような環境を作りだそう。

5) 今あるソフトでも使い方でいろいろ楽しく使えるかもしれないから工夫してみよう

6) 子ども達の創造的な活動の発表の場を確保しよう。

これらのうち、物理的な制限で、2)と3)はクラブだけではなく学校の授業ぜんたいの問題でもあります。

ちなみに、所属する八王子市小学校教育研究会視聴覚部では、昨年まで「インタネット」を使ったデイベ授業を研究実践し、学校間交流を実験してきた。また、今年度は意図的に、同学年の部員教師の学校間で、交流授業ができないか模索している。もちろんこの時、必要なものは、インタネット、メールなどである。